

前橋ブックフェス2022連携ワークショップ 「本のまちづくり@前橋」



2022年10月29日(土) 14:30～16:35

煥乎堂書店5Fホール

(リアル会場 & ライブ配信)

主催：群馬大学 社会情報学部 読み書きラボ

共催：前橋ブックフェス2022実行委員会、煥乎堂書店

後援：前橋商工会議所

参加無料
詳細と事前申込
(当日参加も可)



プログラム

司会: 群馬大学・平田知久氏

14:30～14:31 挨拶 (前橋市長・山本龍氏)

14:31～14:35 開催の趣旨 (群馬大学・平田知久氏)

14:35～15:05 講演1 「本のまちづくりの理論と事例」 (日本印刷技術協会・藤井建人氏)

15:05～15:35 講演2 「前橋での本のまちづくりのビジョン」 (群馬大学・柴田博仁氏)

15:35～15:45 休憩

15:45～16:25 パネル討論 「本×前橋への期待」

司会: 群馬大学・平田知久

パネラー: 煥乎堂・小林卓郎氏、新文化通信社・丸島基和氏、

日本印刷技術協会・藤井建人氏、群馬大学・柴田博仁氏

16:25～16:35 パネラーインタビュー (パネラーとの意見交換)

講演 1

「本のまちづくりの理論と事例」

藤井 建人 氏 (公益社団法人 日本印刷技術協会 研究調査部長/
主幹研究員)

【概要】

各地を訪れると、良いまちには良い出版社、良い書店、良い図書館、良い印刷会社があることに気づく。なぜ、良いまちには本を核にするコミュニティがあるのか。書店が減少する時代になぜ、本の存在感が逆に高まるのか。情報の物体化という本の特性を地域活性化に生かす試みを「本のまちづくり」という。6月2日の社会情報学シンポジウム第1弾から一歩進めて、事例と理論から考える。



【講演者紹介】

1995年から書店・出版グループにて経営管理と新規事業に従事。2003年から日本印刷技術協会にて印刷関連産業の調査研究。中小企業経営を中心にメディア経営から地域経営まで。中小企業診断士、法政大学中小企業研究所 大学院特任研究員。共著に『ニュースは生き残るか-メディアビジネスの未来を探る』(一藝社),『パブリッシング・スタディーズ』(日本出版学会),『印刷白書』(日本印刷技術協会)など。

講演 2

「前橋での本のまちづくりのビジョン」

柴田 博仁 氏 (群馬大学 情報学部 教授)

【概要】

近年、若者の読書離れています。読書は学びのためと考えている多くの人に対して、楽しむことを目的とした「読書2.0」を促進させたいと思います。そして、前橋を「読書のまち」にすることを目指してみたいと思います。本でまちづくりすることの意義、読書2.0促進に向けた私たちの試み、まちづくりへの期待を述べます。

【講演者略歴】

2003年、東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了。博士(工学)。富士ゼロックス株式会社(最終職位は研究主幹)を経て、2020年10月から群馬大学 情報学部 教授。専門はユーザインタフェースデザインと認知科学。書籍に『ペーパーレス時代の紙の価値を知る』(産業能率大学出版部)。

<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/teacher/shibata/>

<https://hci-lab.inf.gunma-u.ac.jp/>



前橋ブックフェス2022連携ワークショップ 「本のまちづくり@前橋」



2022年10月29日(土) 14:30～16:35

煥乎堂書店5Fホール

(リアル会場 & ライブ配信)

主催：群馬大学 社会情報学部 読み書きラボ

共催：前橋ブックフェス2022実行委員会、煥乎堂書店

後援：前橋商工会議所

参加無料
詳細と事前申込
(当日参加も可)



プログラム

司会: 群馬大学・平田知久氏

14:30～14:31 挨拶 (前橋市長・山本龍氏)

14:31～14:35 開催の趣旨 (群馬大学・平田知久氏)

14:35～15:05 講演1 「本のまちづくりの理論と事例」 (日本印刷技術協会・藤井建人氏)

15:05～15:35 講演2 「前橋での本のまちづくりのビジョン」 (群馬大学・柴田博仁氏)

15:35～15:45 休憩

15:45～16:25 パネル討論 「本×前橋への期待」

司会: 群馬大学・平田知久

パネラー: 煥乎堂・小林卓郎氏、新文化通信社・丸島基和氏、

日本印刷技術協会・藤井建人氏、群馬大学・柴田博仁氏

16:25～16:35 パネラーインタビュー (パネラーとの意見交換)

講演 1

「本のまちづくりの理論と事例」

藤井 建人 氏 (公益社団法人 日本印刷技術協会 研究調査部長/
主幹研究員)

【概要】

各地を訪れると、良いまちには良い出版社、良い書店、良い図書館、良い印刷会社があることに気づく。なぜ、良いまちには本を核にするコミュニティがあるのか。書店が減少する時代になぜ、本の存在感が逆に高まるのか。情報の物体化という本の特性を地域活性化に生かす試みを「本のまちづくり」という。6月2日の社会情報学シンポジウム第1弾から一歩進めて、事例と理論から考える。



【講演者紹介】

1995年から書店・出版グループにて経営管理と新規事業に従事。2003年から日本印刷技術協会にて印刷関連産業の調査研究。中小企業経営を中心にメディア経営から地域経営まで。中小企業診断士、法政大学中小企業研究所 大学院特任研究員。共著に『ニュースは生き残るか-メディアビジネスの未来を探る』(一藝社),『パブリッシング・スタディーズ』(日本出版学会),『印刷白書』(日本印刷技術協会)など。

講演 2

「前橋での本のまちづくりのビジョン」

柴田 博仁 氏 (群馬大学 情報学部 教授)

【概要】

近年、若者の読書離れています。読書は学びのためと考えている多くの人に対して、楽しむことを目的とした「読書2.0」を促進させたいと思います。そして、前橋を「読書のまち」にすることを目指してみたいと思います。本でまちづくりすることの意義、読書2.0促進に向けた私たちの試み、まちづくりへの期待を述べます。

【講演者略歴】

2003年、東京大学大学院 工学系研究科 博士課程修了。博士(工学)。富士ゼロックス株式会社(最終職位は研究主幹)を経て、2020年10月から群馬大学 情報学部 教授。専門はユーザインタフェースデザインと認知科学。書籍に『ペーパーレス時代の紙の価値を知る』(産業能率大学出版部)。

<https://www.inf.gunma-u.ac.jp/teacher/shibata/>

<https://hci-lab.inf.gunma-u.ac.jp/>

